

名古屋大学大学院・国際言語文化研究科・応用言語学講座

第4回公開講演会

名詞における項の選択と事象性

共催：現代日本語学研究会
後援：2010年度「対話創生」プロジェクト

講師

小野尚之先生
(東北大学大学院国際文化研究科・教授)

日時

2011年3月17日(木) 午後5時～6時半

会場

名古屋大学留学生センター棟 2階 207号室

動詞の項構造は、動詞の意味を事象として捉え、参与者間の意味関係によってそれを表示したものである。よって、動詞による項の選択は本質的な意味で事象性の表現である。しかし、名詞による項の選択は事象性の表出であるとは必ずしも言えない。個体名詞(「人間、自動車、木」)あるいは関係名詞(「父、手、先生」)は直接事象に結びついていないので、それらの項構造は事象性を示すわけではない。

本発表は、このような動詞と名詞の本質的な項構造の違いをオントロジーという概念を導入することで捉えることを提案する。オントロジーには大別して事象的(主題的)オントロジーと非事象的(属性分類的)オントロジーがあるが、これを受けて、名詞の項選択には事象的モードと関係的モードがあると想定する。この仮説の下で、名詞の項選択は、事象的なファクターと非事象的なファクターが相補的に作用していることを、動詞由来の動作主名詞や個体名詞化、あるいは複合語における項選択の議論を通して示す。

来訪歓迎・入場無料

連絡先：堀江薫教授 (horieling@gmail.com)